

資料 3

SDGsの推進について



令和7年度の主な取組について

1 普及啓発の取組

●SDGs 未来都市みなまたオリジナルロゴマーク看板設置

SDGs 未来都市として、本市の魅力や取組をさらに発信していくため令和5年度に作成した、SDGs 未来都市みなまたオリジナルロゴマークの看板を8月に新庁舎敷地内へ設置した。



●SDGs 未来都市みなまたオリジナルロゴマークピンバッジ一般販売

水俣市のSDGsへの取組を市内外へ発信することを目的とし、SDGs 未来都市みなまたオリジナルロゴマークピンバッジの一般販売を開始した。

- 【販売場所】
- ・Shop&Café ミナマータ
 - ・新水俣駅（環境学習情報交流センター地域情報案内所）
 - ・渚の交番 HIMETATSU

【販売価格】 300 円/個



●SDGs 未来都市みなまたオリジナルロゴマークグッズ制作

水俣市公式LINEの登録者増の取組として、LINEのショップカード機能を活用したサービスを開始予定である。

本市が主催するイベント等に参加することでポイントが付与され、一定のポイントがたまるとプレゼントへの交換が可能となる。

そのプレゼントの一例として、SDGs 未来都市みなまたオリジナルロゴマークグッズを予定している（ピンバッジ、アクリルスタンド、エコバック等を想定）。

2 水俣環境アカデミアにおける取組

●SDGs 未来都市フェスタ（8月23日（土）実施）

SDGs の普及啓発、理解促進を目的として、地元企業、大学、研究機関等による SDGs に関連したブースを水俣環境アカデミアに設置し、来館者が楽しみながら SDGs の取組に触れることのできるセミナーや体験型のイベントを実施した。



●海外大学等連携推進事業

平成29年2月に水俣市と国立台北科技大学が締結した覚書に基づく連携を活かし、大学から教員を招へいし、水俣高校生を対象に世界最先端の台湾における半導体産業や今後の動向などについて講義いただく。

●市民公開講座（年4回開催）

人材育成事業として、各大学及び研究者等と連携し、持続可能な地域社会の形成に向けて、住民の暮らしに身近で役立つようなテーマでの講座を開催する。

第1回：9月27日（土）

「湯の児温泉から考える温泉の未来と地域づくり」

※第2回以降の日時・講座内容については検討中

●大学、研究機関等研修受入

水俣環境アカデミアとネットワークのある大学、研究機関等からの研修を受け入れる。

<慶応義塾大学>

8月3日～6日 慶応大学及びアジア地域大学による水俣現地フィールドワークを実施



<長崎県立大学>

9月29日（予定） 長崎県立大学地域創造学部公共政策学科基礎演習

<台湾行政院教育部（環境部化学物質管理署所轄）>

10月28日～11月19日（予定） 台湾青年海外夢実現事業水俣研修

<環境省 環境調査研修所>

令和8年1月14日～1月16日（予定） 環境省職員及び全国自治体職員向け環境問題史研修

●木育ワークショップ

産学官が連携し、地域産材をテーマとした知識と木材加工技術の習得を目的とし、持続可能な地域づくりを担う人材を育成する。

< 4月11日（金） >

- ・水俣高校電気建築システム科建築コースの生徒へ「水俣の森林の現状や課題」をテーマとした講義（講師：合同会社Wood one 緒方様）
- ・小中学生向け木育ワークショップ（SDGs未来都市フェスタへブース出展）や製作実習における製作物の検討（助言指導：水俣地区建具組合）

< 4月25日（金） >

建築士講話（講師：県建築士会水俣芦北支部青年部 吉永様）

< 6月6日（金） >

木製品デザインワークショップ（講師：県建築士会水俣芦北支部青年部 吉永様）

< 7月11日（金） >

「埋蔵文化財と建築」「水俣市の文化財」について講話（教育課生涯学習室）

< 8月23日（土） >

SDGs未来都市フェスタにおいて小中学生向け木育ワークショップを実施。

約80人の参加者に対し、生徒らが木や山の話をしながら木工製品づくりを行った。

今後は、9月から11月にかけて水俣地区建具組合様の指導のもとで4回にわたり木製品製作を行う予定。

●プログラミングワークショップ

プログラミング教育を通じて、自ら考え自ら行動するための論理的思考力、問題解決能力を習得し、将来、情報技術を環境保全・環境負荷軽減等の社会問題の解決に活用できる人材を育成する。

< 6月17日（火）、9月2日（火） >

小中学生向けのプログラミングワークショップに向けたメンター教育を実施



< 7月31日（木） >

第1回ワークショップ

< 8月23日（土） >

第2回ワークショップ（SDGs未来都市フェスタへブース出展） >

< 9月13日（土） >

第3回ワークショップ

< 12月20日（土） >

第4回ワークショップ

●高大連携未来塾

次世代を担う若い世代が、国内外の様々な環境問題等に触れることにより、環境負荷を身近な問題としてとらえ、グローバルな視点で環境負荷を意識し、低減を実践できる人材を育成する。

＜水俣高校×慶應義塾大学との連携＞

慶應義塾大学と水俣高校のSDGsをテーマとしたワークショップを実施

（第1回 5月27日、第2回 7月8日、第3回 8月5日）

8月に慶應義塾大学の学生がフィールドワークを兼ねて水俣を訪問し、SDGs未来都市フェスタにおけるブースの内容について検討を行った。

＜水俣高校×日越大学（ベトナム）との連携＞

10月以降にオンライン交流を実施する予定で、日越大学と調整中。

●グローバル人材育成事業

令和6年度に実施した同事業の最終成績上位2名が4月にスタンフォード大学で開催された表彰式に参加し、プログラムの感想及び今後の展望について英語でプレゼンを行った。

令和7年度においても、8月2日（土）に開講式を行い、スタンフォード大学の国際異文化教育プログラム専任講師による、水俣高校生への全10回の英語のオンライン授業を実施中である。



●プログラミング人材育成事業

令和7年度も「地域活性化起業人」（企業人材派遣制度）を活用してプログラミング教育の専門家を配置し、プログラミングセミナーや、小中学校における授業のサポートを行うほか、ロボコンの独自大会の実施やWRO（国際的ロボコン）出場へのサポートなどを行う。

6月7日（土）にプログラミングセミナーを開催した。さらに、5月から7月までロボコン教室を開いて練習を行い、7月26日（土）、27日（日）のWRO熊本予選会に出場した。

第3期水俣市SDGs未来都市計画の策定について

1 第3期水俣市SDGs未来都市計画の策定

現在、策定している「第2期水俣市SDGs未来都市計画」は令和7年度までの計画であるため、「第3期水俣市SDGs未来都市計画」を策定する必要がある。

また、内閣府から「2026年以降に策定するSDGs未来都市計画については、原則2030年までを計画期間とし次期計画を策定するもの」と通知があったため、次期計画は2026年～2030年までの5ヵ年計画とする。

第3期計画策定スケジュール（予定）

	時期	実施主体	作業概要
1	～令和7年11月25日	市	水俣市地方創生SDGs総合戦略会議委員へ <u>計画の素案に対する意見照会を行う（書面）</u> 内閣府へ素案を提出する ※必ずしも最終的な意思決定が行われたものでなくてもよい
2	令和7年12月	自治体SDGs進捗評価・調査検討会等	未来都市から提出された計画（素案）に対して、 <u>改善点、検討事項等について意見する</u>
3	～令和8年1月中旬	内閣府	未来都市から提出された計画（素案）の確認を行い、 <u>計画素案の修正を助言する</u>
4	～令和8年2月上旬	市	上記2及び3の意見をふまえ、 <u>計画（修正案）を作成する</u>
5	令和8年2月上旬～中旬	内閣府	4の計画（修正案）等の <u>最終確認を行う</u>
6	令和8年2月中旬以降	市・内閣府	5の最終確認が終了次第、 <u>公表する</u>